

行政の窓

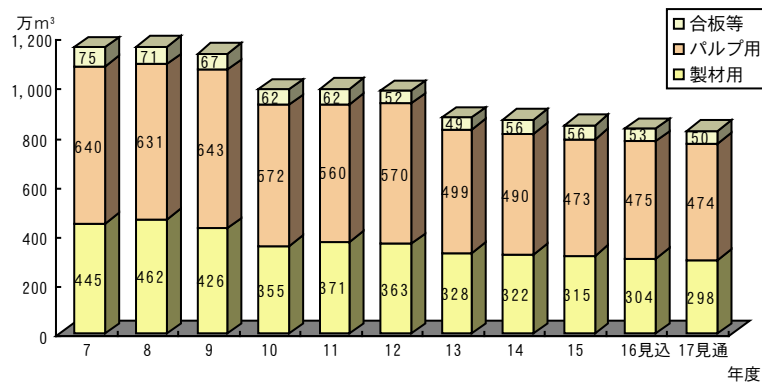
平成17年度北海道木材需給見通しについて

【需要について】

○16年度の需要量については、パルプ用は前年並みですが、製材用、合板等ともに減少するため、15年度実績（843万 m^3 ）に対し1.3%減の833万 m^3 の見込みとなっています。

○17年度も同様の状況が続くものと予想されていることから、H16見込み（833万 m^3 ）に対して1.2%減の822万 m^3 の見通しです。

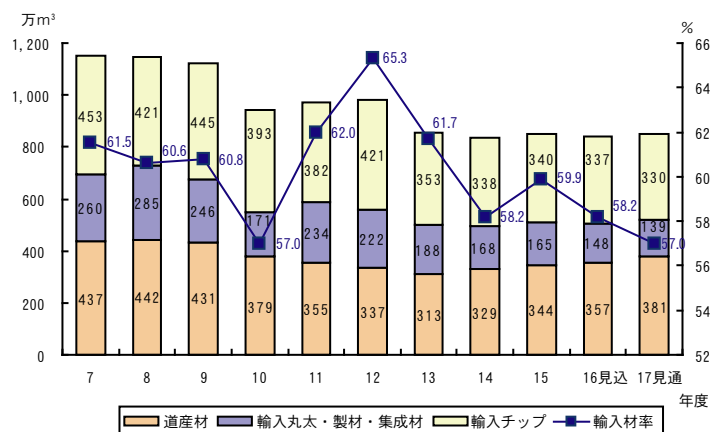
○なお、パルプ用の割合が58%となっており、全国に比べて高い傾向にあります（全国16年見直し42%）。



【供給について】

○16年度の供給量は、道産材は増加しますが、輸入丸太の減少が顕著で、15年度実績（850万 m^3 ）の1%減の842万 m^3 の見込みです。

○17年度の供給量は、輸入材は減少、道産材が増加することから、16年度見込み（842万 m^3 ）の1%増の850万 m^3 の見通しです。



【輸入材率について】

○北海道の輸入材率（輸入量／総需要量）は、16年度で15年度実績（59.9%）に比べ1.7ポイント減少して、58.2%となる見込みです。

○17年度は、16年度見込みに比べさらに1.2ポイント減少して、57.0%となる見通しです。

※数値は原木消費量または原木換算値
（水産林務部 木材振興課 林産振興グループ）